

平成 25 年度の笹川科学研究助成に「ポリ A 付加シグナルの回避による長鎖 RNA 転写機構の解明」という研究課題で採択して頂きました。学位取得後、新しい研究室で初めて頂いた研究助成ということもあり、採択通知を受けたときにとっても嬉しかった思い出があります。また、申請書の執筆は、新たな研究をスタートするうえでプランをしっかりと練り直す良いきっかけになりました。本助成のように沢山の若い研究者を対象に助成して頂ける事業は、若手育成という面でも非常に大きな意味をもっていると思います。

この度、私は「小分子非コード RNA による遺伝子発現制御システムの研究」という業績により、令和 2 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞することができました。この研究では、小分子 RNA と呼ばれる 20-30 塩基長の小さな非コード RNA に注目し、数千から数万という配列種の小分子 RNA がどのようにゲノム中に多数存在する標的遺伝子を制御するかを明らかにするとともに、小分子 RNA がエピジェネティック因子として働く新たなメカニズムを明らかにしました。平成 25 年度に助成して頂いた研究内容も、小分子 RNA がつくられる元となる長い RNA がどのように転写されるかを解析するといったものでした。私の研究スタイルとしては、分子生物学的・生化学的な実験手法を用いて詳細なメカニズムの解明を試みると同時に、バイオインフォマティクスのアプローチを組いて生命現象の全体像を明らかにしようとしています。こういったスタイルがゲノムの大部分を占める非コード領域を対象とした複雑な遺伝子発現制御の理解にうまくフィットしたのではないかと考えています。

学位を取得してから 10 年弱研究をすすめてきましたが、研究をすればするほど、自分自身の力だけでできることの幅の狭さや限界を感じてきました。学生時代の恩師や卒業後に所属した研究室の PI およびラボメンバーはもちろんのこと、学会などで出会った方々にも様々なアドバイスやサポート、共同研究の機会などを頂いたことを受けて受賞に至るまでの研究成果を挙げる事ができました。この場をお借りして、みなさまにお礼を申し上げます。また、こういった自身の経験からも、後輩研究者へのアドバイスとしては、やはり助成金への応募や学会での発表を通して自分自身の研究をアピールしていくこと、さらにそれをきっかけに様々な出会いやチャンスを得て、モノにしていくことの重要性をお伝えできればと思います。